

北九州市
市議会議員

井上じゅんこの

市政報告

北九州市を
変革中!!!



市議会議員の井上純子です!! 日頃より活動にご協力いただきありがとうございます。
この度、北九州市議会では6月に本会議が開催されましたので
「井上じゅんこの市政報告～Change!KITAKYUSHU Vol.02～」をお届けします。
今回は6月議会のご報告だけでなく、市政で見えてきた『変革と成長コーナー』も
増えて盛りだくさんです! ぜひご覧ください♪

profile

- 1986年 誕生/北九州市育ち
- 2005年 福岡県立八幡高校理数科卒(57期)
- 2005年～ 北九州市職員(15年半勤務)
- 2008年～ 3児の母
- 2016年～ 「パナナ姫ルナ」(コスプレ)として市をPR。
全国メディアから注目。市のイメージアップに貢献。
- 2021年 北九州市議選初当選(無所属/八幡西区トップ)

市政情報を発信中!



市政ご意見受付中!

TEL 093-600-4012 FAX 093-330-4233

6月補正予算の決定

一般会計補正予算 総額 40億8,879万円

■新型コロナウイルス関連予算 22億4,120万円

- ① 感染拡大時の体制・機能強化 2億860万円**
 - ・新型コロナウイルス感染症患者への自宅療養支援事業
 - ・クラスター発生施設等への医療支援事業
- ② 地域経済対策 11億6,400万円**
 - ・家賃等賃借料支援金給付事業+中小事業者月次支援金給付事業
 - ・宿泊施設等改修支援事業
 - ・中小企業のDX推進支援事業
- ③ 市民等への支援 8億6,860万円**
 - ・困難を抱える女性に寄り添う緊急支援事業
 - ・緊急短期雇用創出事業
 - ・保育施設併設型コワーキングスペース等立地促進事業
 - ・次世代通信整備型コワーキングスペース立地促進事業
 - ・新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金給付事業<追加議案>



■その他予算 18億4,759万円

- ・公共施設におけるバスケットゴール更新事業
- ・北九州市学校応援基金への積立

— 主な内容 —

- (1) コロナ対策 新型コロナウイルス感染拡大時の体制強化**
 - 自宅療養者へ「食料品・生活必需品等の支援やパルスオキシメーター等の貸与、看護師の訪問健康観察」の支援スタート
 - クラスター発生施設への療養継続支援 他
- (2) アフターコロナ 企業への事業変革を支援**
 - テレワークやオンラインビジネス、デジタル事業変革に対する補助支援(上限200万円)
 - 宿泊施設等へ感染症対策に加えて、テレワーク最適な空間への改修へ補助(最大750万円)
- (3) アフターコロナ 新しい働き方を支援**
 - 保育施設併設型のコワーキングスペースを小倉(AIMビル)に整備 他
- (4) コロナ対策 コロナ禍での困難を抱える女性への支援**
 - NPO団体を通じて、地域から困窮する女性へのアプローチや、専用の相談カウンターを設置し、専門部署と連携した支援を強化。



■新型コロナワクチン接種について

現在、下記のとおり進行中です!(7月31日時点)

- ご予約はこちら
- 電話予約 0120-489-199 (9時～17時)
 - 接種会場、予約空き状況、インターネット予約はこちら



対象区分	予約状況	予約先	接種会場	
一般	16歳以上	予約受付中 ※「案内はがき」到着後から予約	インターネット コールセンター 各区役所等	集団接種、個人病院
基礎疾患のある方 (年齢条件なし)	かかりつけ医が接種可能	予約受付中	かかりつけ医	個人病院(かかりつけ医)
	かかりつけ医が接種不可		コールセンター 各区役所等	集団接種、個人病院(その他)
優先接種(職種による) ※福祉施設従事者、保育士、教職員など		受付終了(事業所を経由して案内)		
優先接種(障がいのある方) ※各種障がい者手帳・受給者証等をお持ちの方	予約受付中	かかりつけ医 ※予約不可であれば下記へ TEL:0120-489-474 FAX:093-383-0820	集団接種、個人病院	

※12～15歳は別途案内予定
※国からのワクチン供給状況により予定が変更となる場合があります。テレビ1チャンネルの「dボタン」でご確認いただけます。

■災害避難の意識を!

近年、「想定を上回る」豪雨・台風など大災害が各地で発生しております。願います。命を守ってください。「今まで大丈夫だった」は通用しません。
1.ご自宅や生活場所は「災害発生の危険性のある場所(ハザードエリア)」ではないですか? 下記WEBサイトでご確認ください。また各区防災担当へご確認ください。



2.災害・避難情報はどのように取得しますか?

テレビ1チャンネル「dボタン」もしくはWEBサイトでご確認いただけます。



3.発令される警戒レベル3以上は避難を!(危険なエリアにお住まいの方)

警戒レベル	新たな避難情報等
5	緊急安全確保※1
4	避難指示※2
3	高齢者等避難※3
2	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
1	早期注意情報(気象庁)

変革と成長

北九州市の新たなチャレンジについて紹介しています

1.教育×ICT(情報通信技術)で変革!

■1人1台のタブレット端末!資質・能力・創造力の向上

現在、タブレット端末の活用により、学習への関心意欲を高め、IT知識、豊富な情報量により学習効果をアップ

■コロナ休校でも学習を支援

自主休校生徒への授業をオンライン配信、一斉休校時の活用事例あり

■不登校生徒へ社会的自立を支援

●30日以上欠席の生徒を対象とした不登校対策「未来のとびらをひらくプロジェクト」が8/30よりスタート!タブレット端末を活用して、自宅でも朝のホームルームや授業のフォローアップ(在宅型)

●不登校対策室(通所型)でもタブレット端末による学習コンテンツで習得度をアップ



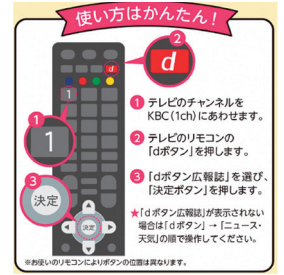
2.「市政情報発信」の成長

■市公式HPの見やすさ改善



市民がほしい情報を目立つ位置・デザインへ!

■dボタン広報のスタート



テレビ1chの『dボタン』でワクチン・災害情報を発信!毎日更新!

■「市政だより」はオンライン購読できます →



市長にきく!

令和3年6月議会／一般質問

A コロナ禍における事業見直しについて

(井上) 昨年度の補正予算では、新型コロナウイルス感染症対策費として、1,666億円計上。一方、イベントの中止や延期による減額補正(マイナス予算)は、17億円。事業数は、コロナ関連として200事業計上されたが、減額補正は、87事業の予算が削減されたのみ。コロナの影響で実施が困難となったイベント事業で、減額補正を実施した時点で実施の可否を判断せず、予算の執行が行われてしまったケースがあるのでないか。

一例として、本市の動画制作状況がある。独自調査を行った。直近3年間で、制作数は年間41本から令和2年度280本、2年間で約7倍。事業費(他事業を含む総額)では6千万円から令和2年度は3億5千万円と約5倍以上に急増。注目したいのは費用対効果の観点。動画制作を含めた契約金額に対して、視聴一回あたりの金額を考えた場合、額が高いものも散見される。制作時期は年度末に集中しており、スケジュール面からみても趣旨・企画に対して適切な事業内容であったのか。税金を投入する公共性の高い広報事業においても「費用対効果」の視点を持って検証すべき。

1 動画制作について
本市における動画制作状況について、制作方針や作成後の検証体制は適正であるのか。今後、事業の費用対効果を高めるために、どのような対策が必要だと考えているのか。動画による効果的な広報事業の全庁的あり方について、市長に伺う。

2 減額補正について
令和3年度の減額補正について、新型コロナウイルスの影響により執行できない事業を早期に見直し、できるだけ多くの予算を新型コロナウイルス感染症対策に充当することを要望する。

(市長) 動画は、直近3年で事業周知177件、市のPR150件、研修など91件、418件制作した。対象も用途も多岐にわたるので動画再生数などで効果を測ることは難しい。限られた予算で効果的なものにするため、作る側の意識や知識を高めていく。動画は制作の手段となっていく。全庁的な広報マインドの向上に努め、効果的な広報に取り組んでいく。

(井上) 多くの予算が「趣旨や予算」のみで具体的な手段が決まっていけないものもある。担当部署による事業の企画方針や事業検証、改善が必要である。市独自のWEBサイトに調査をした。市では106サイトあり、制作費は2億2千万円を超える。WEBサイトも動画も縦割りで散在している。全庁的な広報マネジメントを行う役割が必要ではないか。市長に見解を伺う。

(市長) 非常に重要なご指摘。今ほど広報について重要な時はない。市役所のシステムとして、広報の費用対効果をあげる工夫をする。(総務局長) 広報は重要。各部署がしっかりと広報戦略を練ってやるのが大切。PDCAサイクルとして行政評価も実施。広報戦略としては、広報室が情報共有を行って、広報室が中心に取り組んでいきたい。

(井上) 市のふるさと納税が過去最高の10億円を超えた」とニュースに取り上げられた。市職員がターゲットである顧客に季節やニーズに合わせる特集や、市の強みを生かした商品開発の企画提案を行っていた。これはマーケティングの手法で、大変すばらしいと感じた。そこで、各部署で事業効果を上げる3つの提案!来年度予算審査にむけてしっかりと事業見直しをお願いしたい。

B 学校における安全管理について

① 各事業の検証体制を!
現在の行政評価では、「発注する業務ごとに事業の目標設定」とする。市職員としても「成り上がり」がモチベーション、能力アップに必ずつながる。「効果が少ないのに見直さない継続事業」は市民・市職員にとってもプラスはない。

② 委託契約の企画募集は手段の見直しを!
自治体は一般競争入札が原則であるが、企業からの事業提案によって選定するコンペ形式がある。しかし、募集内容を見ると、目的・ターゲットではなく、「手段」を細かに設定しているものもある。これでは、「事業目的」に対して、自由な提案を妨げている。事業者間の競争が活発に行われることも事業効果を上げる方法なので、工夫してほしい。

③ 予算マネジメントで「印刷物」だけでなく「動画」まで無駄チェックを!
現在の予算審査において、「印刷物の無駄」を減らすために印刷物発行計画書を作成して審査している。「コロナ禍において紙媒体より、はるかに動画のニーズが高まっている今では、動画も審査するよう工夫してほしい。



(井上) 気象庁と環境省では温暖化による熱中症患者が急増していることに伴い、気温だけでなく湿度や日差しの強さまで含めた「暑さ指数(WBGT)」を今年4月に全国へ運用を開始。文科科学省からも「熱中症事故の防止について」の通知がきている。マスクの着用も状況によっては熱中症の原因になると問題視されている。文科省から体育時などには必要ないという方針が示され、学校現場でも体育の時間はマスクを外してもよいと指導をしているが、マスクの着用は子どもの意思決定が尊重されている。また、体調悪化についても自己申告制であり、周囲の目が気になって息苦しくてもマスクを外せない、また体育等の授業に参加したいという思いから無理をする可能性もあり、マスクの着用を「子どもの裁量」に委ねられる状況は、「体調の悪化」に繋がる危険性もあると考える。すでに運用が開始された「暑さ指数」について、コロナの感染予防対策と併用しながらどのように対応し、子どもの安全管理をしていくのか。見解を伺う。

(教育長) 学校では、「暑さ指数(WBGT)」を測定して対応している。5月に全校へ「熱中症事故の防止」についてお願いした。感染症対策に加えて、熱中症対策も呼びかけている。体育時のマスク着用、水分補給など、再度徹底を通じた。子供の安全と健康を第一に考えた熱中症予防対策に取り組んでいく。

(井上) 小学校高学年、中学生の多感になる時期は同調圧力が受けやすい。学校現場では保護者の手が届かない。最悪の事態が起きてしまつては遅い。もちろんマスクの感染予防としての必要性と、運動時の危険性、両面を指導してほしい。また、「体調が悪い」ときに自己の声を発しやすい環境づくりへも努めてほしい。

■お詫びと訂正
前回の市政報告において、「子ども医支給制度」の表中、「小学生の通院費は1,200円」、「中学生の入院費は無料」と訂正いたします。大変失礼いたしました。

1. 地元企業でハラスメント研修の実施
2. 大学生インターン受け入れます
3. フードロス活動広がっています
4. [メディア掲載]WEBメディア「福岡ふかぼりメディア ささっと」に掲載
5. [メディア掲載]InstagramLIVE「政治家と話そう」に出演



【市政相談・お問合せはこちら】

TEL 090-2859-1877 FAX 093-330-4233

Email: info@junkoinoue.jp

井上純子 駅前オフィス 〒802-0003 北九州市小倉北区米町1-1-1 小倉駅前びびきビル6階